

留学先国名 : アメリカ

留学先学校名 : ナザレスカレッジローチェスター校

留学期間 : 平成 27 年 8 月 26 日 ~ 平成 28 年 5 月 2 日

ナザレスカレッジローチェスター校に 10 か月間の交換留学をしていました。国際関係論を専門として 2 セメスター（スクールイヤーで 1 年）滞在しました。平和学、社会学、政治学、マネジメント、宗教、ライティングの授業を受講しました。日本ではあまりない分野の授業内容も多く、刺激をたくさん受けました。特に LGBTQ、人種差別、麻薬、テロ、リーダーシップなどが印象に残っています。学習については、生活の中で日本よりも勉強の比重がかなり大きかったです。授業形態も全く異なっているので、最初は本当に苦労しました。特にディスカッションやプレゼンテーションのグループでの準備などは、日本と違いすぎて、慣れるまでかなり時間がかかりました。教授に質問や相談に行くとき毎回 Don't be shy!と言われ、「私はシャイじゃないのに。。。」と落ち込むこともしばしばでした。授業中に積極的に質問、発言することが求められ、それが評価に直結するので、授業中おとなしく黙っている日本人の姿はシャイにうつったようです。一番とまどったのが、質問や意見を言うタイミングを計ることでした。多くのアメリカの学生は、ほかの学生や教授の話でさえ遮って、反論や質問をします。失礼にならないように、と待っているといつまでたっても自分の発言する機会は来ないため、ある意味攻撃的な姿勢で臨んでいました。授業外の課題がとても多く、最初のセメスターはほぼずっと勉強している状態でした。夜中の二時まで課題の論文やテキストを読んで、朝六時に起きて続きをやってもまだ間に合わないような状況でした。しかしほかの学生は全部読み切っていないにも関わらず、授業では積極的に発言をして評価を受けていて、非常に悔しかったです。しかし私も熱心に勉強したためか、テストでクラス一番の成績を取ることができ、知識が身についたととても嬉しく感じました。教授から「あなたが授業を受けてくれてよかった。他の生徒も私自身もあなたから学ばせてもらった。」と言っただいて、とてもうれしかったです。知識以外にも批判的な視点、否定する力、多角的な観点が養えたと思います。日本は本当に単一的な民族で、個性や違いといっても知れています。アメリカは移民の国のため、様々なバックグラウンドを持つ人々が一堂に会しています。性格、コミュニケーションの方法、文化、生活様式などありとあらゆるものが異なっている相手と共同で生活し、友達になるのはかなり大変です。しかし、その分非常に興味深く、勉強になることもたくさんありました。その中でいかに自分が日本を知らないか、ということにも気が付きました。また、アメリカの良さ悪さ、日本の良さ悪さについてもかなり気づかされました。驚くことも多かったです。新鮮で学び続ける日々だったと思います。

学校が主催のイベントも多くあり、それに参加することで、たくさんの新しい経験、友達ができました。遊びのイベントだけでなく、math club や LGBTQ のコミュニティなど、専門や社会問題について考えるようなイベントもあり、興味深かったです。例えば Diversity Dinner という、様々な宗教観を持つ人が集まり、お互いに宗教観をシェアするディナー。Halloween Week には一週間お祭りが続きました。また、時たま安全なカジノが体育館に現れました。イースターやサンクスギビングなど、宗教と絡みつつもみんなでお祝

いするお祭り。Theater of the oppressed という、有志の学生が、黒人差別、LGBTQ 差別についての劇を行い、それに対して観客が私だったらこうする、という意見を言い、実際に劇の中に飛び入り、みんなで解決策を模索していくイベント。本当に多種多様で、すごく興味深く、interactive なイベントが多かったです。海外での経験については、生活スタイル、コミュニケーションの仕方、言語など様々な違いに苦しめられました。すべてが新鮮で圧倒的でした。本当に大変だったけれど、その分勉強で成果が出たとき、友人がどんどん増えていくとき、学内の様々なイベントで盛り上がったとき、などとても楽しく過ごすことができました。日本人がほかに一人しかいなかったため、自分の英語だけですべての友達ができただと思うとても誇らしかったです。勉強以外にも難民支援ボランティアと日本語の授業のお手伝い、language lab assistant、Recycle Mania とリサイクル大会のチーム参加を行いました。難民ボランティアは近くの教会で行われました。すごく明るく和気あいあいとした雰囲気の中で、大人も子供も一緒に勉強したり、ゲームをして遊んだり、私のこれまでの「難民」のイメージとはかけ離れていて、私自身が毎回子供たちから元気や癒しをもらいました。日本語の授業のお手伝いでは生徒は少数ですが、一緒に読む練習や文法を勉強することで、ここが間違いやすいのか、といったことや文法用語の英語が逆にわかるので面白いです。さらにみんなが四苦八苦して話す少し間違った日本語を聞くと、違和感やもどかしさを覚えました。そのおかげで、これまで私と話してくれていたアメリカ人の子もこんな風に私の未完成な英語を聞きながらも、とても誠実に接してくれていたのだなと思い、感謝の気持ちが芽生えました。Recycle Mania は、全米カナダの400校以上の大学がリサイクル率を競う大会です。チームメンバー募集が学内全体にかかったのですが、結果的に学生は私一人で、ほかは学校のスタッフさん数名とチームを組みました。今年初めて Naz が出場することになったので、認知度が低かったせいもあると思います。しかし、リサイクル等環境保護への意識の低さは感じられました。チームとしてマグカップを使っている人の写真を撮る活動、オンライン署名運動などを行いました。結果、私の大学 Naz は NY 州で一番のリサイクル率でした。また、私は休みのたびにホームステイをさせてもらっていました。旅行も NYC, Montreal, Niagara Falls には行きましたが、旅行は大人になってもいけると思い、今しかできないホームステイを計3回経験してきました。Conversation partner Program でバディだった友達のおうちに冬休みの三週間と春休みの一週間、Thanksgiving にホームステイプログラムで一週間近所のお宅にステイさせてもらいました。ホームステイ先では、本当の家族のように接してもらい、アメリカの文化、食事、流行、若者の会話などについてとても詳しく知ることができました。とてもよくしていただいて、感謝の念がたえません。特に Thanksgiving、クリスマス、ニューイヤー、イースターなどアメリカらしいイベントの時期に、ステイさせてもらったことは、貴重な経験でした。それを経験することは昔からの夢だったので、本当にうれしかったです。課外活動も精一杯楽しむことができました。今回の留学は、自分にとって知識の幅、視野を広げ、価値観を揺さぶられ、一生の友達ができ、密度の濃い時間だったと思います。日本以外の国での生活、特に世界の中心アメリカニューヨークで、人々のものの考え方、外交的な見方、コミュニケーションの仕方を学べたことは非常にためになったと思います。日本を客観視することができて、日本への批判も受け入れ、反論し、アメリカを批判し、反論される。とても刺激的な日々でした。そして、将来の選択肢が日本だけではなく、世界にまで広がったことも大きな収穫の一つです。英語でのコミュニケーションももうほぼ問題がなくなりました。たくさんのつらいこと、理不尽なことも乗り越えてきたのでメンタル面も強くなり、自信もつきました。何事にも寛容になり、よい意味で鈍感になれ

たかなと思います。将来は具体的には決まっていますが、英語を使う仕事、アメリカに関係する仕事につけたらよいと思っています。留学前の目的だった国際関係論、平和学を学ぶことは達成できたので、平和構築に貢献できるように頑張りたいです。

今回留学する機会をいただけたことに非常に感謝しています。この一年間は自分の人生に大きな影響をもたらす、貴重な時間だったと思います。これからもこちらでできた縁や経験を大切に、精進していきたいです。これから留学される方は、何事にもためらわずに、積極的に動くことをおすすめします。自分から動けば必ずだれかが何かを返してくれます。実り多い経験をされることを願っています。